情報提供資料

2025年4月1日
三井住友DSアセットマネジメント
チーフマーケットストラテジスト　市川　雅浩

市川レポート

2025年1-3月期の日本株の動きからみえてきたこと

- 2025年1-3月期に日経平均は値がさ株の下げの影響で10.7%下落し、TOPIXは4.5%下落。
- 市場別では東証グロース市場、スタイル別ではバリュー株、規模別では小型株が選好された模様。
- 米関税の不透明感が残る間はバリュー、小型、内需、配当、自社株買いは注目されやすいテーマ。

2025年1-3月期に日経平均は値がさ株の下げの影響で10.7%下落し、TOPIXは4.5%下落

今回のレポートでは、2025年1-3月期の日本株のパフォーマンスについて、主要指数やスタイル別、テーマ別、業種別に検証します（図表）。まず、日経平均株価からみていくと、2024年12月30日から2025年3月31日までの期間、10.7%下落しました。構成銘柄では、ゲーム関連や防衛関連、地銀の上昇が目立つ一方、半導体関連や自動車の下落が顕著でした。

東証株価指数（TOPIX）は4.5%の下落となりました。なお、TOPIXは時価総額加重平均で算出されるため、時価総額の大きい銘柄（大型株）の値動きに影響を受けやすく、日経平均は構成銘柄の株価平均で算出されるため、株価水準の高い銘柄（値がさ株）の値動きに影響を受けやすい特徴があります。日経平均は、ファーストリテイリングやアドバンテストなどの値がさ株の下げが影響し、下落率はTOPIXよりも大きくなりました。

【図表：2025年1-3月期の日本株のパフォーマンス】

日経平均株価	-10.7	日経平均外需株50指数	-9.5	鉄鋼	2.3	石油･石炭製品	-4.2
TOPIX	-4.5	日経平均内需株50指数	1.0	陸運業	2.1	機械	-4.4
東証ｸﾞﾛｰｽ市場指数	1.5	東証ﾘｰﾄ指数	2.3	保険業	2.0	電気機器	-5.4
東証ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ市場指数	0.1	日経累進高配当株指数	-1.0	水産･農林業	1.5	卸売業	-5.9
東証ﾌﾟﾗｲﾑ市場指数	-4.5	日経平均高配当株50指数	-1.4	繊維製品	-0.6	小売業	-6.1
TOPIX ﾊﾞﾘｭｰ	-1.7	日経連続増配株指数	-4.5	空運業	-1.0	ｶﾞﾗｽ･土石製品	-6.6
TOPIX ｸﾞﾛｰｽ	-7.5	S&P 日本 500ﾊﾞｲﾊﾞｯｸ指数	-0.8	電気･ｶﾞｽ業	-1.7	医薬品	-6.7
TOPIX MID 400	-2.2	東証の事例掲載企業43社	-2.2	ﾊﾟﾙﾌﾟ･紙	-2.1	海運業	-7.2
TOPIX Small	-2.2	日経半導体株指数	-14.7	金属製品	-2.1	その他金融業	-8.0
TOPIX 100	-5.7	ｺﾞﾑ製品	9.2	建設業	-2.2	化学	-9.1
TOPIX Small ﾊﾞﾘｭｰ	0.5	その他製品	7.2	倉庫･運輸関連業	-2.2	非鉄金属	-11.6
TOPIX 500 ﾊﾞﾘｭｰ	-1.8	銀行業	6.2	食料品	-3.1	精密機器	-12.7
TOPIX Small ｸﾞﾛｰｽ	-5.0	鉱業	4.6	情報･通信業	-3.1	輸送用機器	-12.8
TOPIX 500 ｸﾞﾛｰｽ	-7.7	不動産業	3.7	証券･商品先物取引業	-3.7	ｻｰﾋﾞｽ業	-15.4

（注）　2024年12月30日から2025年3月31日までの騰落率。単位は%。東証の事例掲載企業43社は、東証が2024年11月21日に公表した資料の中で、資本コストや株価を意識した経営の好事例として紹介した43社の株価（等ウェイト）騰落率。ゴム製品以下の33業種は東証株価指数33業種。
（出所）Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

市場別では東証グロース市場、スタイル別ではバリュー株、規模別では小型株が選好された模様

次に、市場別の指数をみると、東証グロース市場指数は1.5%上昇、東証スタンダード市場指数は0.1%上昇しましたが、東証プライム市場指数は4.5%下落となり、相対的に内需関連が多い、新興市場が選好されている様子がうかがえます。スタイル別では、TOPIXバリューが1.7%下落、TOPIXグロースが7.5%下落となり、相対的なパフォーマンスは、割安株が成長株を上回りました。

規模別では、TOPIX MID 400とTOPIX Smallが2.2%下落、TOPIX 100は5.7%下落となり、大型株のパフォーマンスが相対的に低調でした。さらに、スタイル別・規模別でみると、TOPIX Small バリューは0.5%上昇、TOPIX 500 バリューは1.8%下落、TOPIX Small グロースは5.0%下落、TOPIX 500 グロースは7.7%下落となり、グロースよりもバリュー、大型よりも小型が選好された模様です。

米関税の不透明感が残る間はバリュー、小型、内需、配当、自社株買いは注目されやすいテーマ

内需・外需の別では、日経平均内需株50指数が1.0%上昇した一方、日経平均外需株50指数は9.5%下落するなど、大きな差がみられます。また、配当に注目すると、東証リート指数は2.3%上昇し、日経累進高配当株指数も1.0%の下げにとどまっています。このほか、S&P Globalが算出するS&P日本500バイバック指数（S&P日本500指数構成銘柄のうち自社株買い比率の高い上位50銘柄で構成）も0.8%下げた程度です。

このように、2025年1-3月期の日本株のパフォーマンスを振り返ると、やはりトランプ関税への強い警戒感が影響している様子がうかがえ、「バリュー」、「小型」、「内需」、「配当」、「自社株買い」が主なテーマだったように思われます。今後もこれらに関連する銘柄が、相対的に良好なパフォーマンスを維持できるとは限りませんが、トランプ関税を巡る不透明感が残る間は、注目されやすいテーマであると思われます。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものであり、投資勧誘を目的として作成されたもの又は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資の目的に使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。■当資料の内容は、当社が行う投資信託および投資顧問契約における運用指図、投資判断とは異なることがありますので、ご了解下さい。

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第399号
加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.